

<別紙1>

第三者評価結果報告書

①第三者評価機関名

株式会社R-CORPORATION

②施設・事業所情報

名称：くるみ保育園	種別：認可保育所	
代表者氏名：田中 俊雄	定員（利用人数）：139 名（132名）	
所在地：〒245-0021 横浜市泉区下和泉5丁目18番地15号		
TEL：045-802-0974	ホームページ： https://www.Kurumihoikuen.or.jp	
【施設・事業所の概要】		
開設年月日：1964年09月01日		
経営法人・設置主体（法人名等）：社会福祉法人 くるみ保育園		
職員数	常勤職員：21 名	非常勤職員：18 名
専門職員	（専門職の名称）：名	保育士：24名
	看護師：1名	栄養士：2名
	調理師：2名	子育て支援員：1名
施設・設備 の概要	（居室数）	（設備等）
	居室：0歳児室	設備：調理室
	居室：1歳児室	設備：調乳室
	居室：2歳児室	設備：沐浴室兼幼児トイレ
	居室：3歳児室	設備：相談室
	居室：4歳児室	設備：事務室
	居室：5歳児室	設備：医務室
	居室：子育て支援室	設備：保育士休憩室
		設備：調理師休憩室
		設備：幼児トイレ
		設備：大人のトイレ
		設備：みんなのトイレ
		設備：テラス
	設備：園庭	
	設備：エレベーター	

③理念・基本方針

<理念>

心に太陽を・くちびるに歌を

<基本方針>

温かい雰囲気の中でたくさんの遊びと数多くの体験を通して、丈夫な身体と豊かな心を育みます。

<保育目標>

1. 外遊びを大事にする
2. 話を聞けるようにする
3. 自然にできるようにする
4. 年下の子にやさしくする

④施設・事業所の特徴的な取組

<くるみ保育園の特徴的な取り組み>（基本情報 I-3の記載事項）

●広い園庭、明るい園舎。子どもと保育士一緒になっていつも楽しく過ごしています。春は桜の木の下で、夏はお外で水遊び。秋は色づく木の葉を集め、冬は元気に縄跳びボール。お正月には、昔懐かしカルタにすごろく。季節を生かした遊びの数々。それらの遊びをたくさん体験して丈夫な身体が育ちます。

●給食も栄養バランスの良い献立をたてて自園で調理をしています。食育栽培で子ども達の育てた野菜も入れて食べています。園庭で走り回って遊ぶ時間が多いので給食もよく食べ、丈夫な子どもに育ちます。

●色々な行事を通してやり遂げた喜びや、他のお友達と協力をすることで達成感を分かち合えます。

子ども達のたくさんの声を聞くことも質の向上に大切な要素です。小さい年齢の子の話をよく聞くことや年少以上は、皆の前で自分のことを話せる子に育ててもらおう為、生活発表等を行っています。

⑤第三者評価の受審状況

評価実施期間	2023年04月21日（契約日） ～ 2023年10月23日（評価結果確定日）
受審回数（前回の受審時期）	1回（2018年度）

⑥総評

【くるみ保育園の概要】

都市開発による団地建設を契機に開園してから60周年を迎え、創始者の志をしっかり継承し、親子3代による経営も盤石です。園舎も新たに建て替えられ、次世代に向けたハード面・ソフト面の環境を充実させ、今年の4月より新園舎で子ども・保育士共々気持ち新たに園生活を楽しんでいます。また、園庭は広く、遊具も充実し、園庭での栽培活動も活発に行い収穫した作物は給食で提供される等、食育にも積極的に取り組んでいます。

保育理念に「心に太陽を・くちびるに歌を」を掲げ、常に明るさを忘れず、歌を歌うことで本人、他人を励ます力になることを心得、この理念が園全体に浸透し、子ども・保育士の行動にも表れています。利用者アンケートからも職員の接遇の良さ、クラス・学年を超えて一人ひとりの園児の名前、保護者の顔を全保育士が覚えており、送迎時等での声かけや気にかける姿勢は保護者の喜びにつながっています。近隣には卒園者も多く、園・地域との関係性は良好であり、協力的な友好が継続して図られています。

◇特長や今後期待される点

1. 【近隣、保護者との関係性について】

創始者の意向として近隣住民、保護者に寄り添う運営を志しています。自治会の困りごとには前向きに取組み、協力しています。例えば、新園舎建設では道路からセットバックして駐車場を整備し通行を妨げることのないよう改善を図り、そしてこの駐車場を近隣住民にも開放する等親身に考え、諸々自助努力で解決する方針で運営が成されています。また、毎朝、副園長は玄関前で全園児・保護者へ笑顔で挨拶・声かけを行い、その

姿・光景は明るく穏やかな安心感を与え、子どもたちに1日が始まるわくわく感と保護者にも安心して仕事がスタートできるよう、安定感のある雰囲気迎え入れる等、園の在り方の基本が見られます。

2. 【職員の流動性について】

職員採用及び人材育成が最重要課題とされています。内部統制（理念、保育意識の理解）にも取り組まれています。職員整備は新規採用を基本に採用計画が成されています。安定化には、期待する職員像に向けた教育計画を外部の支援も検討して構築していかれることを期待します。

3. 【ICT化に向けて】

現在の保護者、職員の年代はITへの抵抗は少なく導入には前向きなため、推進することの希望は多いと考えられます。職員については保育書類が手書きベースをIT化へ移行することで業務軽減につながり、流動性を高くすることへの要因になることが期待されます。紙ベースは劣化や場所の確保等、管理の適切性に欠けることが懸念されます。また、玄関のモニターを有効活用し保護者への周知・案内に活用する等、一考されると尚良いでしょう。

4. 【規定・書類の見直しについて】

職員の各種規定について、時間の経過による内容の見直しや、不足している規定等が見受けられ、改訂等が求められます。また、社労士の顧問契約を生かし、存分に活用及び充足することによりコンプライアンス遵守の周知・浸透を期待いたします。また、保護者への書類についても、現代に則した見直しをしていかれることが望まれます。

5. 【企業統治について】

ガバナンス（企業統治）を懸念されていますが、計画の立案（透明性）、業務の可視化、社内ルールの明確化と周知、責任の明確化（理事長と園長・副園長・役員会）等、今後ガバナンスを強化することで経営及び運営のリスク軽減を図り、取り組んでいかれることを期待いたします。

⑦第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

施設名 くるみ保育園

《第三者評価を受審した感想・自己評価での取り組みの感想》

今回の自己評価について、職員を6班に分けて取り組みました。リーダーをその班で一番若い人にしました。まとめ方も話し合いをしてもらい、個々に自己評価したものを提出してリーダーに任せて様子を見ました。

前は、リーダーをくるみ保育園での経験が一番豊かな人になってもらったので、若手が意見を言い出せず、自己評価のまとめ方もリーダーの気持ちが強く出ていたと感じます。今回のやり方では、若手リーダーの活躍が見えてきました。

第三者評価を受審してみて、くるみ保育園で長く勤務している職員の考える保育士像と、若手の考える保育士像の違いがはっきりと見えてきました。

くるみ保育園の若い職員が早期に退職してしまう原因がここにもあるということが分かったので、話し合う機会を多く持つように工夫をしています。

また、行事ごとに保護者からのアンケートを取ることが必要とアドバイスをいただき、運動会後に実施しました。様々なご意見を知ることができ、気付きにつながりました。園で備えておくべき「保育園業務マニュアル」、「事業計画書」については、現在作成中です。受審後、評価調査者の方からいただいたご意見がとても参考になりました。外部からの客観的な審査は大切だと実感しました。ありがとうございました。

《評価後取り組んだ事として》

1. 職員研究会にて、子どもが楽しいと感じる保育の取組みまた、不適切な保育について意見交換をして人権について話し合いを行う。
2. 16時以降の保育の見直しを行い、ビデオ視聴を無くし玩具や外遊びを主体にする。
3. 一日のお子さんの様子を伝える工夫として、玄関にクラスごとのホワイトボードを設置して毎日、担任がクラスの様子を記入する。

⑧第三者評価結果

別紙2のとおり